

尾崎士郎記念館企画展

「新収蔵品展」

—人生劇場青春篇挿絵原画を中心に—

平成23年8月2日～平成24年1月22日



『人生劇場 青春篇』
執筆中の士郎
35歳 昭和8年

■ 開催にあたって

当館所蔵資料の多くは士郎のご遺族からの寄贈品で成り立っておりますが、近年新たにご遺族のご芳志により、まとまった数の資料を収蔵することができました。この中から、士郎の代表作『人生劇場 青春篇』の挿絵原画を中心に主な資料を紹介します。

士郎の文章と洋画家の中川一政の味わい深い挿絵はよく調和し、中川は『人生劇場 青春篇』以降も数多くの士郎作品で挿絵・装丁を担当しました。この他に、士郎の直筆原稿や書、士郎と生涯にわたって親交のあった川端康成の書簡や「献詞」など興味深い資料を集めて展示しました。

当館の運営にご協力いただいておりますご遺族に感謝申し上げますとともに、多くの皆様に尾崎士郎の世界の一端に触れていただけましたら幸いに存じます。



『都新聞』（現東京新聞）に連載された『人生劇場 青春篇』 第32回 昭和8年4月19日

■『人生劇場』と尾崎士郎

『人生劇場』は、三州横須賀村に生まれた青成瓢吉の成長を描いた自伝的長編青春小説で、早稲田大学の学友で都新聞の文芸部長であった上泉秀信の勧めにより執筆が開始されました。物語は岡崎の中学時代、早稲田大学での学生生活へと展開していきます。

士郎は当時35歳、短編小説や随筆をいくつか発表していましたが、経済的には苦しい生活を強いられていました。『人生劇場』は昭和8年、都新聞に中川一政の挿絵とともに連載され、2年後に単行本が出版されますが、文壇から注目されることはありませんでした。しかし、読売新聞に掲載された川端康成の書評により一躍ベストセラーとなり、士郎は人気作家の仲間入りを果たしました。



『人生劇場 青春篇』 中川一政筆 挿絵原画
「都新聞」に連載された全165回のうち117枚を当館で所蔵している。

■ 尾崎士郎と画家中川一政

中川一政は士郎より5歳年長で、明治26年生まれ。独学で画家を志し、油彩のほか岩彩・書など、自由で力強い作品を多数発表するとともに、執筆活動も精力的に行いました。晩年は、油彩によって「駒ヶ岳」や「薔薇」を描き、平成3年に97歳で他界しました。

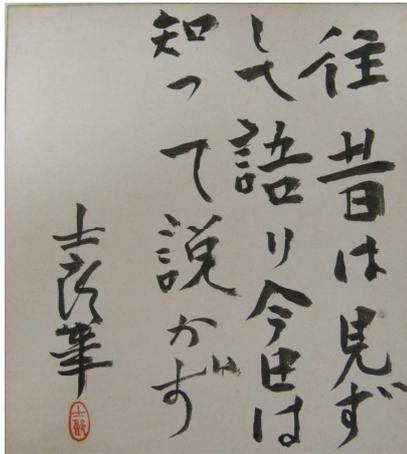
士郎・中川コンビでの都新聞への連載は、『人生劇場』青春篇・愛欲篇・残侠篇・風雲篇、『石田三成』と6年間に渡って断続的に続きました。『人生劇場 青春篇』の中川の挿絵は、素朴な画風が特徴的で、独特の味わいを醸しだしています。



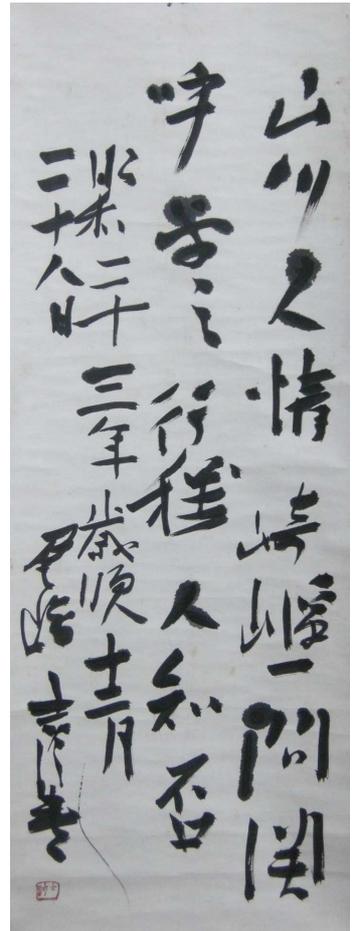
『人生劇場』初版本
昭和10年 竹村書房 装丁:中川一政



士郎筆 長男儀士氏絵
士郎は50歳で俵士氏を授かり、子煩悩な父親であった。



士郎書
吉良上野介のことを記した言葉といわれている。

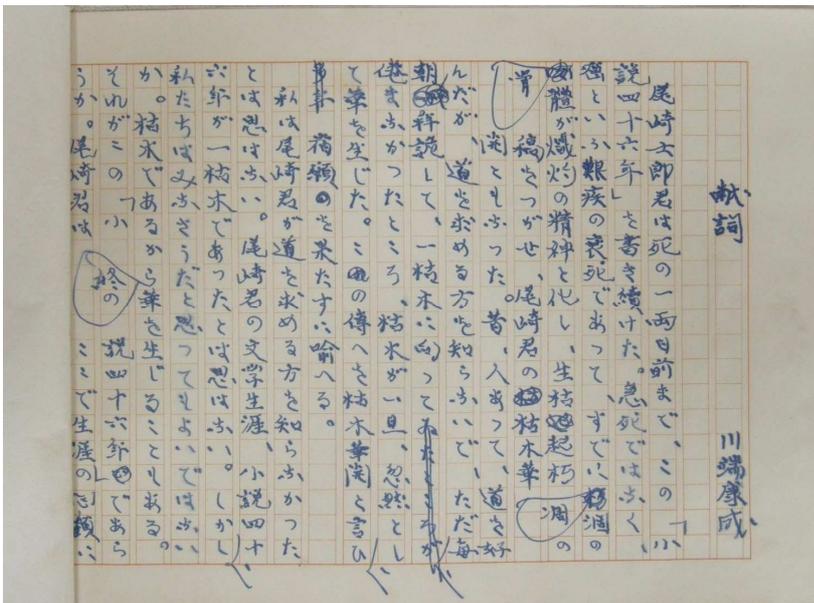


士郎書
公職追放中のつらい心情を漏らした書。

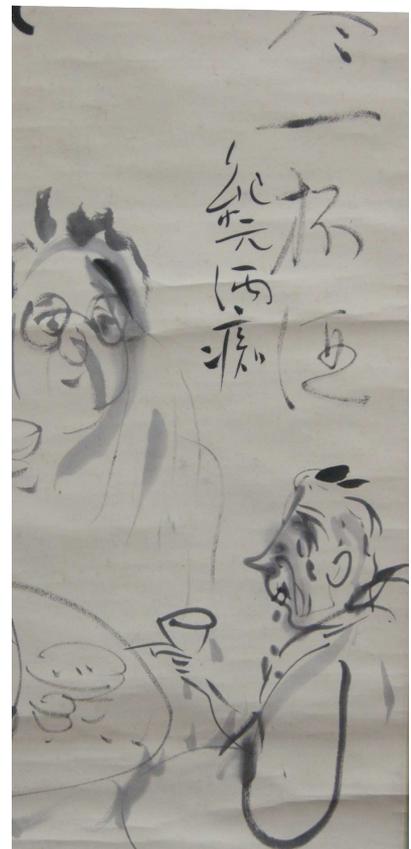
■ 尾崎士郎と交友関係

士郎は酒をこよなく愛し、作家仲間・出版関係者はもとより、経営者・政治家・相撲界・芸能関係者など幅広い友人・知人と酒席を通じた交流をもちました。また、人情に厚く、面倒見のよい士郎は、駆け出し作家の青年に対しても温かい言葉をかけ、時には経済的な援助も惜しみませんでした。

士郎と川端康成とは、小説の作風・性格ともに異なりましたが、20代から親交があり、昭和初期には川端らとともに伊豆湯河原に滞在して執筆活動を行ったこともありました。昭和39年2月19日に逝去した士郎の葬儀では、川端が弔辞を読み上げました。



川端康成筆 「献詞」 昭和39年4月
昭和39年2月19日に他界した士郎の絶筆作品『小説四十六年』のまえがき。



中川・士郎酒宴の図
旧知の画家中川紀元が描いた図。

大田区立尾崎士郎記念館

士郎が昭和29年に新築した自宅を大田区が整備して、平成20年に記念館がオープンしました。書斎部分は当館隣りに昭和63年に移築されたため、元の場所に復元新築されています。 京浜東北線大森駅より徒歩約15分



展示品リスト

No.	資料名	年代	種別	備考
1	NHKの取材を受ける士郎	昭和30年代	写真	
2	士郎書「虚心つくるときなし」		士郎書	色紙
3	士郎書「往昔は見ずして語り 今日知って説かず」		士郎書	色紙
4	士郎筆「長男俵士氏の絵」	昭和26年ごろ	士郎絵	
5	原稿「処女作と出世作」		士郎書	
6	士郎書「馬よりおろして・・・」		写真	弁当箱の検皮に書かれる
7	『人生劇場 青春篇』初版本	昭和10年3月発行	書籍	竹村書房刊
8	『人生劇場 青春篇』（普及版）	昭和10年7月発行	書籍	竹村書房刊
9	『人生劇場青春篇』第32回 挿絵原画	昭和8年4月19日刊	中川原画	都新聞連載
10	『人生劇場青春篇』第83回 挿絵原画	昭和8年6月9日刊	中川原画	都新聞連載
11	『人生劇場青春篇』第95回 挿絵原画（2枚で1回分）	昭和8年6月21日刊	中川原画	都新聞連載
12	『人生劇場青春篇』第131回 挿絵原画	昭和8年7月27日刊	中川原画	都新聞連載
13	『人生劇場青春篇』第134回 挿絵原画	昭和8年7月29日刊	中川原画	都新聞連載 原図には133回とある
14	『人生劇場青春篇』第136回 挿絵原画	昭和8年8月1日刊	中川原画	都新聞連載
15	『人生劇場青春篇』第157回 挿絵原画	昭和8年8月22日刊	中川原画	都新聞連載
16	都新聞『人生劇場青春篇』第157回掲載紙	昭和8年8月22日刊	新聞複写	都新聞連載
17	都新聞『人生劇場青春篇』第32・134回	昭和8年4月19日 7月29日刊	新聞複写	都新聞連載
18	大田区立尾崎士郎記念館写真		写真	
19	士郎一周忌記念品 ぐいのみ	昭和40年		
20	中川紀元書・絵「中川・士郎酒宴の図」		軸	
21	士郎書「山川有情崎嶇間関・・・」		軸	
22	川端康成書「瓢々録」題字	昭和40年	書	清子夫人宛手紙付
23	『瓢々録』（士郎追悼文集）	昭和40年	書籍	私家版
24	川端康成筆「献詞」（『小説四十六年』掲載）	昭和39年	原稿	
25	『小説四十六年』	昭和39年	書籍	講談社刊